

# 図書館報

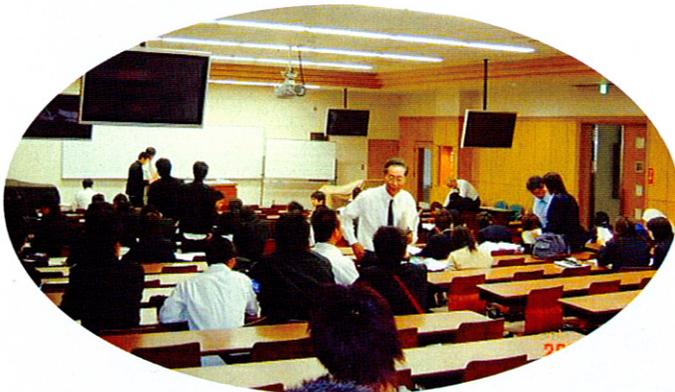


- 図書館設備の整備 …… 2～3
- 読書随想 …… 4～5
- 購入図書を紹介 …… 6～7
- 読書感想文コンクール …… 8～14
- 審査を終えて …… 14
- 図書館統計 …… 15
- 郷土の文化財・編集後記 …… 16



# 図書館設備の整備

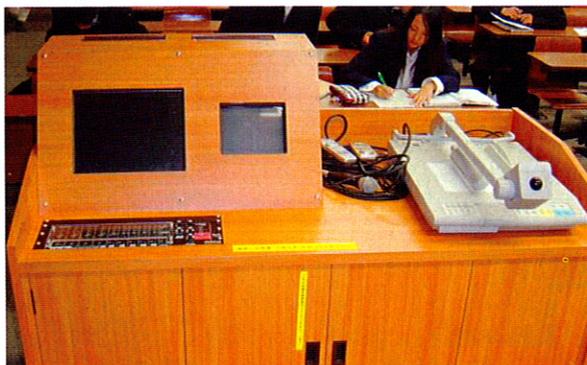
閲覧室のじゅうたんが更新されたのを皮切りに、ここ数年、図書館設備の整備を行ってきた。まず、じゅうたんを張り替えた際、書架の間隔を広くして、閲覧室に広がりをもたせた。その後、椅子の更新、視聴覚室の整備と続き、今回のエレベータ設置に伴うかなり大掛かりな改修で一連の図書館整備も一段落ついたところである。そこで、本報では、整備された箇所の写真を特集した。



モニターテレビに代わりプラズマディスプレイを設置



台風で破損した玄関前の掲示板を更新



全ての操作がボタン一つでできる操作卓



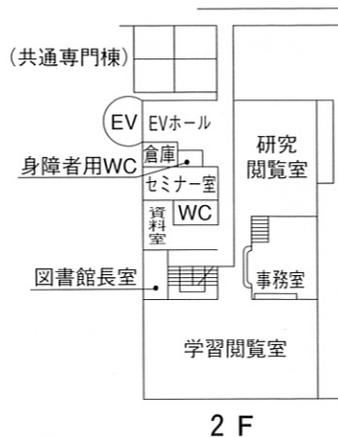
1 F



一般棟2階ロビーに新しく設置された電子掲示板



新しく設置されたエレベータ



エレベータに続く段差のないスロープ



新しく設置された身障者用トイレ



20人程度のゼミ、会議等のための部屋



大きく様変わりした情報センター室

# 読書随想

## 図書館の思い出



電気工学科  
出来 恭一

40歳代前半、それまではレーザー発振器の研究開発に携わっていたのですが、仕事上波長変換技術を習得する必要に迫られ、一念発起その理論の本格的習得に取り掛かりました。といっても土、日曜日しか集中して勉強できる時間はとれません。その頃、3人の子供達がまだ小さく、自宅ではいつも私の回りをうるちよろしておりなかなか集中できないので、近くの市立図書館（加古川市）自習室に毎週末通いました。主に高校

生が利用していましたが、中には司法試験を目指しているらしい成人の方々も何人かおられ、その場の張り詰めた雰囲気につられ集中して勉強できたことを思い出します。近くには私が借りていた県の貸し農園があり、勉強に疲れるとその畑をたがやしたりで、“晴耕雨読”ならびに“晴耕晴読”の週末を何年間か過ごしました。また、その勉学に必要であった坪井誠太郎著“偏光顕微鏡”（岩波書店、1964年）、すでに当時絶版で、著者が導きだした、日本語ではあるが、そこにしか詳細記述のないビオ・フレネルの法則の独自の表記と説明をどうしても確認したく国会図書館に行って調べようかとも思っていたのが、その市立図書館の閉架書庫に眠っていることをたまたま発見し、早速全頁コピーしたのも懐かしい思い出です。家族サービスはほとんどできませんでしたが充実した日々でした。

## 心の支えとなった本との出会い



電子情報工学科  
嘉藤 直子

学生の時、あるショックな出来事を受けとめられず、落ち込んでいた時期がありました。

心身ともに疲れ、やる気もなくなり、マイナス指向で考える自分に嫌気がさしていました。

そんな時、気晴らしに立ち寄った本屋で手にした本が、パット・パルマー著「自分を好きになる本」（径書房）でした。あまりにストレートなタイトルと本の薄さにひかれて、思わず手に取ったように思います。

内容も易しい言葉で書かれており、ほのぼのとした絵が描かれていました。難しい本など読む気も起こらなかった当時の私にはぴったりの本だったのです。

「自分を好きになる本」には、自分を好きになるためのヒントや相手を傷つけずに自分を主張するためのポイントなどが書かれています。この本のおかげで、私はありのままの自分や他人を認めることができ、自分の中にある力を信じられるようになりました。そして、いつもの自分を取り戻すことができました。この本が私の心の支えになってくれたのです。

また、私はこの本に出会ったことで、心理学にも興味を持ち始めました。私は現在、学生相談員を担当していますが、この本の内容を学生相談の中で活かしています。この本は私の宝物です。皆さんも心の支えとなる本に出会えることを願っています。

## 研究のなかでであった本



機械工学科  
坪根 弘明

この本は私が大学4年の研究室配属のとき、磁性流体に関する研究テーマを担当することになり、そのとき最初に渡された本でした。最初は磁性流体って何という素直な疑問とともにこの本を読みました。しかし、今考えてみると、私が大学に入って欲していた最先端のワクワクするような工学に関することの一つがそこに書かれていました。その後、私は磁性流体を用いた研究で博士号を取得し、現在の研究でも引き続

き磁性流体と関わっているのです。そのときの磁性流体という物質とそれについて書かれている『磁性流体入門』（神山新一著産業図書）という本との出会いは運命的なものを感じます。

磁性流体とは磁場に反応する機能性人工流体です。簡単に言うと、磁石に引っつく液体です。これは1965年にNASAでの宇宙開発技術の副産物として開発されたものです。この本では、磁性流体の概要、製造法、種類、特性、理論的な取り扱いについて書かれています。また、後半には磁性流体の応用ということで、現在までに実用化されているものや研究段階の様々な応用機器について書かれています。

最後に、工学を学ぼうという人達には是非読んでいただき、新しい技術の可能性を感じてもらえればと思います。

---

## 「図書館のススメ」

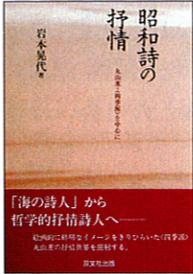


物質工学科  
永田 和美

みなさんは図書館を利用していますか？ほとんどの学生はレポートを書く時くらいにしか足を運んでいないのではないのでしょうか。実は私もそうでした。色々な人が「本を読みなさい」と言うけれど、その他にやりたいことの方が多くてそんな時間はないと思っていました。それが大人になってみると、「やっぱり読んでおけばよかった」と思うものなのです。だから、

みなさんには若いうちから本を読んでもらいたいなと思います。かといっていきなり読むようにはなりませんよね。そこで、私はまず、とりあえず図書館に行ってみるといいと思います。図書館にはむずかしい本だけでなく、おもしろそうな雑誌も置いてありますよね。そういうものから読んでみるのです。何でもいから読む習慣をつける、これ大事なことです。そうして図書館に通っているうちに、色々な本が読めるようになるのではないのでしょうか。また最近では特に、パソコンや携帯メールで文字を書くことが増え、実際に紙に文字を書く機会はかなり減っていると思います。それで漢字には自信がなという人も多いですよね。そういう自覚がある人こそ、本を読むべきです。何気なく読んでいるだけでもだいぶ効果があると思いますよ。

# 購入図書を紹介



## 昭和詩の抒情 岩本晃代著 (双文社)

この本の著者は、本校の岩本晃代先生です。これは、先に岩本先生が博士論文としてまとめられたものを、大幅に加筆訂正して出版されたものです。サブタイトルは「丸山薫・四季派」を中心に」です。岩本先生はもともと、熊本県出身の詩人・蔵原伸二郎をテーマに研究を重ねてこられ、それを平成10年、「蔵原伸二郎研究」として上梓されました。そして、今回、同じ「四季派」で大分県出身の丸山薫に座標軸を移して学位論文としてまとめられたものです。論文なので、小説を読むようにはいかないと思いますが、岩本先生の授業を聞いている学生が読むと、講義がさらに深く理解できるようになることでしょうか。君たちは理系の論文を読む機会はあると思いますが、文系の論文はそんなにないと思います。この機会にこの著書を読むことを勧めます。いくつかの論考がはいっています。全部は読まないまでも、授業に関連のあるところを読むだけでも有益かと思えます。なお、岩本先生は「熊本日日新聞」の書評欄を担当しておられ、月に1回、書評が掲載されています。先生が挙げられた本はだいたい図書館で購入するようにしています。書評を読んで、興味をもった人は、図書館で借りて読んでください。



## ものごとのしくみ事典 安部直文著 (日本実業出版社)

図書(本)を手にとると『ISBN 4...』という番号が目につきますね。この番号は何だろう?と少なからずも思ってしまうもの。実は、『ISBN』は「国際標準図書番号」の略で、次の数字『4』は日本を表している。それから出版社の番号があり...というわけで、世の中には気付いているけれどまだまだ知らない仕組みがたくさんあるのではないのでしょうか?この本は、多岐の分野に渡って紹介され、イラストなどで図解しているので、視覚的にも捕らえられ、さらに読むことでわかったような気にさせてくれます。ムダな知識と云えば「ヘェ〜ヘェ〜ヘェ〜」。さてさてこの知識は、あなたにとって何ヘェ〜?



## 単位がわかると物理がわかる 和田純夫、大上雅史、根本和昭著 (ベレ出版)

物理や化学、そして専門科目を勉強していると様々な単位が出てきます。身の回りにも、身長はcm、体重はkg、自動車の速度はkm/hというようにいろいろな単位があります。一見ばらばらにつけられているように思える単位ですが、実は単位系というものがあります。単位同士のつながりが分かると、苦勞して覚えるだけだった公式の意味が分かり、専門科目などの計算の見通しが良くなって計算間違いがなくなります。単位を知ることが物理を理解し、専門科目を理解することにつながります。計算して最後に単位をつけるときに苦勞している人、公式と公式の繋がりが今ひとつ分からない人、この本を手がかりに単位と物理について考えてみませんか。



## 失敗に学ぶものづくり 畑村洋太郎編 (講談社)

「失敗は成功の基」という諺。理解はしているが、やはり失敗はしたくないもの。それではどうするか?それは、人の失敗を知っておくこと。では、どんな失敗があるのか?この本では、「システム分野の失敗」や「エンジニアの失敗」などを紹介し、その原因を追求していきます。「失敗」しないと分からないことも「失敗」を知ることで「失敗」しない工夫を考案する。それがエンジニア。これでばっちり!...でしょうか?「大工の失敗と成長」では伊勢神宮の遷宮総棟梁が、「実際に失敗しなければ分からない」「失敗は責めない」と唱えています。「心」が失敗しないように今から「失敗」の世界へようこそ。



## ビジュアルレーザーの科学 レーザー技術総合研究所編 (丸善出版)

レーザーの基礎から先端技術まで、その分野の第一線の研究者、技術者が、レーザーのキー技術に関し、各項目を初学者にわかり易く解説しています。特長は説明図が豊富で、ユニークな図も多く直感的にかつ正しい理解が得やすいことです。付録のレーザー図鑑CD-ROMには実際のレーザー装置や応用を出来るだけ広い範囲でとりあげビジュアルに解説しています。レーザーに興味のある人、これから学ぼうとする人の入門書として好適です。



### 光触媒のしくみ

藤嶋 昭、橋本和仁、渡部俊也著  
(日本実業出版社)

「光触媒」という言葉をご存知でしょうか。材料の表面をこの光触媒で覆っておけば、明るい所に置いておくだけで、汚れや臭い成分を自然に分解してくれるとともに、抗菌作用も併せもっている。このようにタイルやガラスの上に付けた酸化チタンを、太陽光や蛍光灯で照らして「汚れず、曇らない」快適表面を実現するのが光触媒技術です。「本多-藤嶋効果」という世界をリードする“日本発”のクリーン技術で、防汚、抗菌、脱臭… etcにも効果のある光触媒技術のしくみを、目で見ると読むよりカンタン、ビジュアル解説で分かりやすく解説してあります。本多-藤嶋効果の藤嶋先生が著者の一人であることもこの本のポイントだと思います。



### 都市/建築フィールドワーク・メソッド~観察と変換~

田島則行、久野紀光、納村信之編  
(INAX 出版)

私たちの生活の舞台である「都市」。普段は、それを何気なく使っていますが、ちょっと見方を工夫してみれば、色々な“クセ”を発見できる面白いところにもなります。

この本は、そうした新しい都市の見方と、その面白さを教えてくれるものです。建築学科の皆さんには、都市・建築の捉え方を学ぶ一冊として。また、その他の皆さんには、散歩を楽しむための一冊として。内容・デザインともに、若い皆さんが親しみを持てるものになっています。是非、この本を手にとり、多くの人に都市を楽しんでもらえればと思います。



### マクマリー有機化学

マクマリー著 (東京化学同人)

この本は私が大学時代に使っていた教科書で、私が有機化学の道に進んだきっかけにもなりました。説明は非常に簡潔でわかりやすく、図もすごく見やすいので、特に有機化学が苦手な人にお勧めです。反応機構を、電子の移動を表す矢印を用いて、一つ一つ丁寧に解説しているのがこの本の大きな特徴です。また、マクマリー有機化学第5版問題の解き方では、マクマリー有機化学の全巻に掲載されている、問題や章末問題の補充問題、発展問題の全問の解答がまとめられていますので、実際に問題を解きながら有機化学の力をつけていくことができます。有機化学をこれから学ぶ人、または有機化学が苦手な人は是非一度読んでみてください。

### 電子工作のための PIC 活用ガイドブック 電子制御のための PIC 応用ガイドブック C言語による PIC プログラミング入門

後閑哲也著 (技術評論社)



PIC とは米国のマイクロチップ社が開発したマイクロコンピュータです。一昨年からロボコンルールが変わりマイコンの力を借りないとロボットを動かす事が出来なくなりました。実は本校のロボットはこの PIC マイコンを沢山使って動かしています。コンピュータを基礎から勉強したい君！、C言語で悩んでいる君！、実践的技術を身につけたい君！、ロボットを制御したい君！、300円の PIC が全てを解決しますよ！

- 技術評論社 電子工作のための PIC 活用ガイドブック
- 技術評論社 電子制御のための PIC 応用ガイドブック
- 技術評論社 C言語による PIC プログラミング入門

後閑 哲也



### 『わかりやすい英語冠詞講義』

石田秀雄著 (大修館書店)

「不定冠詞 “a (an)” は “1つの” で、定冠詞 “the” は “その” である。」なんて思っている学生さんいますか。“a (an)” と “the” の正体は何ものなのでしょうか。日本語には冠詞がないから関心 (かんしん) が無い、とは言わせません。確かに日本語には統語的文法形態としての冠詞は存在しませんが、日本語を始めその他冠詞のない言語にも意味的機能的には “見えない冠詞” が存在します。この本は、可算名詞と不可算名詞、単数と複数、といった対立概念を、“見えない冠詞” という人間の持つ認知的視点から考察し、英語の冠詞の本質にせまっています。知的好奇心を高め英語の本質をみかきまみる旅をしてみませんか。

# 校内読書感想文 コンクール

本年度もたくさんの学生が「読書感想文コンクール」に応募してくれて感謝しています。4学年までは、教科の一環として読書感想文を位置付けたので、ほとんどの学生が提出してくれました。ただ、自由参加の5学年は1人しか応募してくれなくて残念でした。卒業研究等で忙しいとは思いますが、本を読むくらいの時間はとれるでしょうから、来年度はもう少し多くの人が応募してくれることを期待しています。

選考の経過はこれまで通りです。第1次審査はクラス担任の先生にお願いしました。第1次審査を経た約100編について、審査委員が手分けして第2次審査をおこない、34編をえらび、それについて、審査委員6名全員で最終的選考をして入賞作品を決定しました。

例年感じることですが、君たちの感受性には驚かされます。感想文を読んでいると、普通接しているときは、あまり感じ取ることのできない一面を、文章を通して垣間見ることができます。いつの時代でも青春特

有の夢や不安や恐れがあるという、きわめて当たり前のことをあらためて再認識しました。

ある若い女優さんが、学校にいるときは余り本を読まなかったが、台本をきちんと理解するには読書が不可欠と感じて、読書を習慣づけるようにした、という記事を新聞で読みました。読書をするようになって、脚本家の考えや気持ちも分かるようになり、想像力や表現力も豊かになって、演技に深みがありましたそうです。これは単に演技をする人だけではなく、広く一般に言えるのではないのでしょうか。もちろん技術者にとっても。技術者は専門さえ勉強していれば他は必要ないという意見があります。このような考えには賛成しかねます。読書することで、人間のありようを、人間の情理を学び、想像力や表現力を深め、奥行きのある技術者になって欲しいと思います。

(図書館長 瀬戸 洋)

## 入賞者

### ■最優秀賞

2年5組 山本 弓 『破戒』を読んで

### ■優秀賞

建築学科 4年 吉田 沙織 『ライ麦畑でつかまえて』  
2年2組 津崎 英里 死とは

### ■佳作

物質工学科 4年 柿木 美紀 『アンネの日記』を読んで  
電子情報工学科 3年 古川 明子 『地獄変』を読んで  
物質工学科 3年 鳥巢 友希 『地獄変』を読んで  
電気工学科 1年 河口 宗久 田上耕作と『小倉日記』  
物質工学科 1年 永田 梢 幸福を感じる本に出会った  
電子情報工学科 1年 谷口恵利佳 『海と毒薬』を読んで  
電子情報工学科 1年 乗富聡一郎 『ライ麦畑でつかまえて』から  
建築学科 1年 堀川 智代 『赤毛のアン』を読んで

# 入賞作品紹介



## 『破戒』を読んで

2年 5組  
山本 弓

明治39年、著者島崎藤村はこの本を自費出版した。極貧のため、彼の3人の娘は栄養失調で亡くなったという。果たして、彼がそこまでして世の中に、そして私たち人間に伝えたかったことは何なのだろうか。

同情、憐れみ、悲哀。或いは優越感などではない。この本を読んで感じたこの静かな怒りを私はうまく伝えられるだろうか。人間ほど愚で醜い生き物はいない。改めてそう思った。差別や偏見。もしこのようなものがなかったら、ドイツに於けるユダヤ人の大虐殺はなかったし、宗教の迫害による争いで命を落とす人もなかっただろう。そしてこの物語の主人公丑松のように部落出身のためにそれまで築いてきたものを失い、教職を追放されることもなかっただろう。

“破戒”たった二文字のこの言葉が表すその本当の意味を私は知る由もなかった。自分の身分を隠す事で得られる幸せな暮らしと自己嫌悪。父との戒を破り、素性を明かす事で得られる自由と孤独。破戒という言葉が持つ内面的な重圧感に私だったら潰されていた。

私は障害を持ち、車椅子に乗るようになって5年経つた



## 『ライ麦畑でつかまえて』

4年 建築学科  
吉田 沙織

「世界に一つだけの花」というSMAPの大ヒット曲がある。「人類愛」を強調した歌詞は老若男女を問わず広く高く評価されている。この本を読んでその真意を考えた時、この歌を思い出した。

主人公であるホールデンは、名門高校を退学して家に帰らず、町をさまよう。そこで見つけた社会のインチキや大人の仮面に正面からぶつかり反発する。「幸運を祈るよ」とスペンサー先生に言われ、ホールデンはスペンサー先生の本心と言葉がずれていることを瞬間に感じとる。16歳のホールデンはこのことを無神経でありインチキであると考え。確かに心にもないことを大人は平気で口にする。大人にとっては何でもないことなのかもしれないが、16歳という微妙な、半分大人の世界に足を踏み入れた状態だからこそ、この大人の矛盾に反発し、心は不安定に揺れ動くのだろう。今の時代は、十代の若者の事件が多発し、その度にマスコミは精神状態や家庭環境などを取り上げ、「普通」ではない部分にひどく注目する。この「普通」というつく

だが、初めて外に出た時恐ろしくて悲しくて仕方がなかった。その理由はただ一つ、人の目線に耐えられなかったからだ。あの当時私は同情や偏見の目に怯えていた。丑松が身分を明かす事で本当に怖かったもの。それは人の目ではないか。自分から周りの大切な人達が離れていってしまう事ではなかっただろうか。丑松に度々自分の姿を垣間見たのはこの所為だと思う。孤独……これこそ人間の最も忌み嫌うものだと思うのだ。

私はこれまで私の最も尊敬する恩師との出会いによって差別や人権について多くを学ぶ機会に恵まれた。そこで自分が知らぬ間に差別をしていた事に気付かされた事もあったし、差別を差別だと知らなかった事に驚き、自らの臍甲斐無さを恥じた。自分の偏見を偏見だと分らない事が一番怖い事なのだ。

私には本作品の最後に、致命的な逃げがあるように思われる。丑松は仲間に見送られ、新しい生活の為にテキサスへ向かった。現在部落差別という問題は薄くなっているように見えるが、この現代社会においてもなお各地に存在し続けている。苦しむ人々の声を聞く度に何も出来ない自分の無力さにぶつけようのない怒りを覚える。

嘗てこの本ほど簡明率直に部落差別と向き合った作品はなかっただろう。著者の勇気と努力に心から感服する。著者が本作品で伝えたかった事は、差別や偏見で満たされたこの世界にいつ伝わるのかとふと不安になる。しかしこんな世の中でも著者のように何もかも投げうって人間の犯した過ちと闘っている人々が沢山いる。私も勇気を持たねば。最後にこの言葉を引用させてもらおう。そして心に刻むのだ。人の世に熱あれ。人間に光あれ。

られた枠があるからこそ余計に、気持ちと体と頭の中とがアンバランスな私達若者は、迷い、苦しみ、焦り、バランスを失い過ちをおかしてしまうのだと思う。大人に対する先入観が大人になることへの不安要素なのかもしれない。

その後、ホールデンは、精神分析の先生の世話になり、病院で静養するようになる。この本の文章は、ホールデンが自分の体験を語ってきかせているような感じで書かれている。回想を語る口調だから、冷静に簡単に心情を伝えているが、実際にはもっと深いとまどいや不安があったと思う。読み進めていくうちに、ホールデンには何か「普通」ではない部分があり、心の中に闇のようなものを抱えているように感じた。本の文頭に「わが母に捧ぐ」とある。しかし、本の内容には母の話はほとんどない。このことが何かに関係しているように思える。大人である母に何かを伝えようとしているのではないかと。

題名にあるライ麦畑は話の内容には出てこない。アメリカには広大な麦畑が広がる。見渡せば一様に見える麦も、1本1本の集まりから成り、さらには、1粒1粒から成る。その1つ1つには異なる特徴や個性をもち、同じものはないのである。それこそが本当の「普通」であり、人間も同じであると訴えかけているように思う。「ライ麦畑でつかまえて」これは、1人1人それぞれが違う個性や考え方、特徴を持っている。そのことを認め合い尊重し合うという意味があるように思う。これらの気持ちを忘れず、大切にしたい大人になりたいと思う。



## 死とは

2年 2組  
津崎 英里

「先生」や「K」を死まで追い詰めてしまったもの。また、「先生」が、「妻」に、全てを打ち明けなかったのはなぜなのか。この二つの疑問が、『こころ』の不思議な世界に私を引きずり込んだのです。

この疑問を解決するのに欠かせないと私が考えたのは、「私」との関係で淡々と語られてゆく「先生」の心や行動ではないだろうか。私は、「先生」の過去が明らかになるにつれて、激しい衝撃と興奮を覚えていった。

主人公である「先生」の不思議な魅力に取り付かれた「私」は、彼のことを知ろうと、質問を投げかけるのだが、彼は容易過ぎる返答しかせず、話の核心部分を避けてしまうのだ。そんな彼の様子を目の当たりにした私は彼を卑怯だとしか思えなかった。しかし、そんな彼が時折垣間見せる、心の奥深くに眠る消えない傷のようなもの。それは、昔起こった、とある出来事によるものだったのだ。それは、友人である「K」の自殺。あまりにも強い衝撃を受けたのではないだろうか。

彼の死について、私は単なる失恋による「ショック」で自殺したのだらうと考えていた。しかし、本を読み終えると、この問題について単純に片付け過ぎたのではないかと

思えてしかたがなかった。そこで私は、こんな考えを導き出した。「K」は厳しい精進を志し、自分の『道』を貫こうとする者だから、恋をしてしまった自分に対し、矛盾を見出してしまった。それが故に、自分を許すことが出来ず自殺してしまったのではないかと。

その後、この事件は「先生」の生涯に黒く暗い影を落とすことになってしまった。その影は、いつでも「先生」につきまとい、苦しみ、決して離れようとはしない。「先生」は罪と良心の間の葛藤に押しつぶされそうになりながら、もがき苦しんだあげく、自分も「K」と同じ道を進んでしまうのだ。「先生」の死は乃木大将の死に触発されたことも理由の一つとして挙げられるだろうが、最大の理由は、孤独感にさいなまれたためではなかろうか。「K」も「先生」も自分が存在していることに対し、理由のない孤独感を抱いていたのではないか。また、二人は安息の場を求め、死というものに辿り着いてしまったのではないのか。私の考えは膨らむばかりだった。

最後の疑問点である、「妻」に全てを打ち明けなかったこと。全てを打ち明けていればどんなに楽だっただろうか。しかし、「先生」がそれをしなかった理由は、たぶん「妻」が「K」や「先生」に対して行った行為。心をいたずらに動かしたり、「恋は罪悪」であるとさえ考えさせた行為を責めたくはなかったのであろう。これは「先生」の「妻」への最後の優しさだったのだろう。昔のことは自分の心に封印し、奥さんを愛し続けたことにより、全ての人の心に棲んでいるであろう、利己心をも封印したかのように感じられた。



## 『アンネの日記』 を読んで

4年 物質工学科  
柿木 美紀

私はこの『アンネの日記』を何度も読んだことがあり、読む度に悲しく涙がでできます。今回も『アンネの日記』を読みました。学年を追うごとにアンネ・フランクの心情や世界の様子などが詳しくわかってき、『アンネの日記』を読む私の心情がかわってきました。小学生の頃から好きだったこの本は、私にいろいろなことを語りかけてくれます。何事もプラスに考え、夢を忘れないアンネの生き方、人に対する優しさ、世界に対してのアンネの考え方、全てにおいてアンネは私にとってかけがえのない存在でした。たった一人の幼い命が世界の人々の心に訴えるものは、アンネの純粋な気持ちだったと私は思います。戦争が終わり、堂々と道を歩けることを夢みて、アンネは隠れ家の窓をみていたと思います。

収容所に連れていかれ、不衛生な場所で過ごし、空腹にもたえ、母親や姉、友達のことを考え、気持ちが落ち込み

そうになっても、前向きに生きるアンネの人生は私に勇気や強さをくれました。今、自らの命をたつ人が多くなってきているこの世の中、アンネのような生き方をしている人は少ないのではないのでしょうか。気持ちの弱い人、勇気のない人、自信が持てない人、多くの人が何か心に不安をかかえているこの時代、アンネのような生き方は無理なのではないでしょうか。私はそのようには思いません。アンネの前向きな考えは、ただ一つ、希望を持っていたからだと思います。希望や夢は、自分自身をプラスに持っていける力があります。辛いこと悲しいこと、苦しいことがあっても、その奥に希望があると、人は頑張れるものです。アンネはその思いがとて強く、意志のかたい女の子だったと私は思います。だからこそ小さな隠れ家に何人も人が住んでいても、くじけずいられたのだと思います。少しの考えの違いで、人は自分を追いこむことも、前向きに進むこともできる動物です。

この『アンネの日記』を読み、私は今回人の生き方について考えさせられました。だれもが持っている気持ちのスイッチを入れるか、切るかにより人生はかわってくと教えられました。今後また『アンネの日記』を読みたいと思いました。



## 『地獄変』を 読んで

3年 電子情報工学科  
古川 明子

『地獄変』。この話を1回読んで思ったことは、残酷だとか、ひどい話だというものでした。

地獄絵図を描くために、生きたまま火をつけられ、殺されるという所だけを聞けば誰でもそう思うでしょう。私も最初は、なんて話なんだろうと思いました。自分の娘が目の前で苦しんでいるのに、それを止めようとしなない父親の良秀に対して腹が立ちました。

しかし、2回読むと不思議と考えが変わってきました。ひどい父親だと思っていた良秀に対して、この人は本当の絵師なんだなという思いや、かわいそうという思いが生まれてきたのです。

良秀は、周りの人達からはひどく嫌われていました。それは、彼の横柄で高慢な性格や気味の悪い風貌などが原因であるのは確かですが、絵のためなら何でもやるという所も原因の一つでした。地獄絵図を描くために死体を写生したり、弟子に鎖をかけたりと普通の絵師はやりそうに



## 『地獄変』を 読んで

3年 物質工学科  
鳥巢 友希

みなさんは芥川龍之介の『地獄変』という作品を読んだ事がありますか。これは平安時代の『宇治拾遺物語』や『古今著聞集』より材料を得た歴史小説であるといわれ、芥川の「王朝もの」と呼ばれる代表的な一作でしょう。それだけ人を魅了する力があります。

この本を読み終えた時、私は胸が締めつけられる思いがしました。こんなにもお互いに思いやってくれる父娘はいません。父—良秀が自分の芸術家としての信念を貫く高慢な絵師でなければ幸せに暮らせただろうにと悲しくなりました。火をかけられる前の牛車の中で娘は何を思ったのでしょうか。私にはなぜか「娘は全てを承知で火をかけられるのを待っていた」と思えてならないのです。良秀が「絵を描く為に地獄が見たい」と言いだした事、その為に今から自分の乗っている車に火がかけられる事、自分が犠牲にならなければ良秀は地獄絵を完成させられない事。優しい娘はそれを承知の上で車に乗っていたのではないのでしょうか。そして愛娘が目の前で焼け死ぬ有様を良秀は、初めは父と

ない事をしていました。しかし、この普通ではない所が多くの人をひきつける絵につながっているのです。

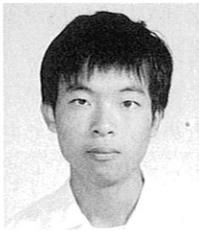
そんな完璧を求め続ける良秀だからこそ、自分の娘が目の前で焼かれていてもそれが絵を描くためなら、それで完璧な絵が出来上がるのならやむを得なかったのだらうと思いました。きっと良秀も、火の中へ飛び込んでいった猿のように、娘を助けたい、あるいは、一緒に最後の時を迎えたいと思って自分も娘の元へ行きたかったのだらうと思います。でも良秀は行かなかった。私は、そんな良秀を本当の芸術家だと思いました。すごいとか尊敬するという気持ちはありません。ただ、最後の最後まで、自分の精神を貫き、完璧を追求した良秀に対してそう思いました。

道徳的な見方をすれば、こんな事は絶対に許されないし、私も良秀の行動が正しいとは言えないと思います。愛する娘を見殺しにすることが正しいなんて、良秀自身も思っていなかったでしょう。そうでなければ首をつって自殺なんてしないと思います。そこまでしてでも自分の中の完璧を求めるといふ人並み外れた才能を持った良秀をかわいそうとも思いました。でも許すことはできないと思います。

この話を読んで、芥川龍之介も芸術と道徳の矛盾の中で苦しんでいたのではないかと思いました。でも、だからこそ後世まで残るような作品をつくることのできるのだらうと思いました。

して、次第に絵師として見つめます。本当は火の中に飛び込んで娘を救いたい気持ちで一杯でしょう。しかし絵師としての良秀がそれを許さないのです。絵を完成させるという芸術家としてのエゴイズムが人間としての倫理を上回るなど普通は考えられません。ですが良秀は娘の死を「恍惚とした法悦の輝き」で見つめます。娘の命と引き換えに、良秀は「地獄」を得たのです。絵師としての良秀に人間の気持ちはないのでしょうか。最高の絵を完成させる為だけに生きているのです。では実際に「地獄」を描き、望み通り傑作を完成させた良秀は—。人間としての感情を取り戻し、父として娘を死なせてしまった絶望感にさいなまれ、更には娘を殺したも同然の自分が生き続ける意義を見出せなくなってしまったようです。愛する娘の後を追ひ、自殺という道を選ぶしかなかった良秀を思うと、「人間とは何か」「芸術とは何か」と、考えさせられます。確かに人を殺してまでも絵を描き上げようとする良秀の邪な根性は懲らしめるべきです。しかし大殿様は娘の死を目の当たりにした良秀から何も感じるものがなかったのでしょうか。だとしたら娘に純粋な愛情を注いだ良秀よりも、大殿様のもくろみの方に邪なものを感じます。

利己主義で生きてきた男は、また利己主義の男に生きる希望を捨てられ、最期は文字通り地獄へおちました。芸術家として、また人間として、エゴイズム中で生きてきた人々の物語です。



## 田上耕作と 『小倉日記』

1年 電気工学科  
河口 宗久

僕はこの夏休みに、松本清張の「或る『小倉日記』伝」を読みました。これは、田上耕作というみじめな肉体と明敏な頭脳を持った青年が、母親に助けられながら、小倉時代の森鷗外の足跡を探して歩くという話です。

僕がこの話を読んで、一番疑問に思ったことは、耕作の行った研究は、意味のあるものだったのかということです。体に障害を持った耕作は、『小倉日記』の研究を進めていくうちに、何か自分がひどく空しいことに懸命になっているような不安に度々襲われます。そして耕作の死後、東京で鷗外の『小倉日記』が発見されます。

僕は耕作の研究には意味があったと思います。何故なら障害者として社会に認められなかった耕作が、1つの研究に熱心に打ち込み、少しずつ周りの人々にも認められるようになったからです。そして耕作の母親にとっても、たった1人の頼りの息子が、障害をもちながらも1つの研究に熱心に打ち込んだことは、大きな喜びと励みになったのだ



## 幸福を感じる 本に出会った

1年 物質工学科  
永田 梢

原作者堀辰雄さんは1人の女性を愛していた。そして彼女も彼のことを愛していた。しかし2人の幸せは私には考えられないものだった。2人にとっての幸せ、人間にとっての幸せが本当は何なのかということを物語っているこの『風立ちぬ』という作品は今まで私が思っていた「幸せ」の感じ方を一変させた。

彼女は肺結核という病に侵されていた。彼と一緒にサナトリウムに行くことになり、以前とはまったく異なった生活が始まった。1日中病室のベッドで寝たきりの暮らし。体はどんどん弱まり病状も悪化した。その様子を優しく見守り励まし続ける彼。今2人でいること、彼女が息をしていること、静かな山奥で安静に暮らせること。2人にとってそれで十分であった。彼女の看病をしながら彼は今の生活、今の幸福についての小説を書くことを決意した。彼は彼女に1つだけ手伝いをして欲しいと頼んだ。「頭から足の先まで幸福になってもらいたい。」だがその小説の結末が彼には書けなかった。彼女を死に追いやることを結末にしたいわけではない。できるなら今の幸せのままを結末にできた

うと思います。そしてこの話の中で耕作の母親は、家計が苦しいにも関わらず、耕作の研究のために、人力車を2台も雇いました。耕作の研究は、母親をそうまでさせるほど大きなものだったのだらうと思います。又、そこには親子の愛情の証も見えていると思います。

僕がこの話の中で着目した点は、耕作をこれほどまでに研究に打ち込ませる原動力とは何かということです。耕作が小さかったころ、彼の家の家作に1人の老人がいました。その老人は「でんびんや」といって、大きな鈴を持って、歩きながらそれを鳴らしていました。この老人は耕作に対しては優しく、耕作は朝早くに枕に顔をうずめて、この鈴の音がかほそく消えるまでを聞くのが好きでした。耕作はこの時、「でんびんや」とは何か分かりませんでした。1年後、老人の一家は突然夜逃げをしますが、中学に入って読んだ森鷗外の『独身』という本の中で、「でんびんや」とは郵便の走使であるということを知りました。僕はこのことが、耕作を『小倉日記』の研究へと結びつけたのだと思います。おそらく耕作は、「自分は孤独ではない」と感じたのだと思います。世の中には、きっと自分に知恵をつけてくれる人がいるのだと感じたのだと思います。

耕作の人生は短くはかなく、『小倉日記』の素晴らしい研究も未完成に終わってしまいました。その人生の中で一瞬輝いた時を、鈴の音が象徴しているように思いました。

らと願っていた。2人が出会ってから2年半、彼は彼女と永遠の別れをした。その後彼は山奥の小屋で1人暮らした。彼女を想いながら。その中でリルケの『鎮魂歌』という本を彼は読んだ。「我々はその事物を目の前にしていても、それは此処に在るのではない。我々がそれを知覚すると同時にその事物を我々の存在から反映させているきりなのだ。」私はこの文章を読んで思った。物だけではない、人間も同じであると。私達が今ここにいること存在していること、それは誰かに知覚されているからできることなのだ。孤独な人なんていない、存在しないのだと。そして2人もそのことを分かっていたに違いない。だからお互いが存在し合っているだけで幸福を感じられたのだ。

私達は生きていく上で常に何かを求めてしまう、すべては幸福のために。しかし私達が幸福になるために求めるべきものはたった1つだけなのだ。それは最も尊く、最も価値のある「生」だ。誰もがもっていて誰もが身近に感じられるもの。けれど今の私達はその事実を見失いかけている。間違った「幸福」の求め方によって生を自ら削ってしまっている場合があるのだ。そして私もその間違った幸福を今まで求めていた。しかしこの作品の中のたった2人の人物が私を本当の幸福に気付かせてくれた。それは意外にも単純なもので、それには個人差なんてなくみんな同じ大きさ同じ重みだったのだ。気付けば、私の周りにはいるすべての人が幸福をもっている。なんて素敵なことだろう。

1冊の本に出会った。出会わなければ分からなかったかもしれない。私は幸福と共に生まれたこと。幸福と共に生きていくこと。幸福と共に死を迎えられること。



## 『海と毒薬』を 読んで

1年 電子情報工学科  
谷口 恵利佳

私はこの作品を読み進めていく中で人間の心の奥底にある冷徹さ、非情さをかいま見たような気がして、物語を読み終えた後に言いようのない後味の悪さを覚えました。内容は、戦争末期に起こった大学付属病院における米軍捕虜の生体解剖事件の話で、その解剖に参加した医師、看護師の心境がとても事細かに描かれていました。そういった内容の中でも私が一番印象に残ったのは、人の命を命とも思わない人間の冷酷な素顔です。物語に登場する医師達は患者の死という出来事に何の感情さえも感じなくなっていました。「死体など見慣れている」この言葉を文中で目にした時、驚きと共に当時の医療、そして現在の医療にまでも不信感を感じました。数多くの結核で苦しんでる患者達を助ける為。だけど私にはどうしてもそうは思えませんでした。治療の為だと解釈しようとする私の心の中にも何か解らない感情が渦巻いていました。ただ一つだけ言えることは、この解剖実験の上に現在の医学の進歩は成り立っている

のだという事です。病氣や怪我に対して十分な治療ができず、入院している患者達に対して十分な環境や設備が整っていなかったこの時代に何故こんな悲惨な事件が起こったのか。何故日本人はこんな残酷な行為をしたのか。この問が絶えず私の頭の中を駆け巡っていました。その答えとまではいきませんが私はある一つの結論に最終的にたどり着きました。人間はいつも善良な市民の顔ともう一つ隠された顔を持っています。戦争でたくさんの人々が毎日のように亡くなっていく中で、ただでさえ人の死に直面している医療に携わる人々は、人の死という事に慣れてしまい、人を死なせるという行為にさえも正しい感情を抱けなくなってしまっていたのです。そういった中で米軍捕虜の解剖があり、うしろめたい気持ちと共に心の奥にある人間の興味を引かれる何かを誘い出したんだと思います。その何かは詳しくは解りませんが、誰もが心の奥に抱き、潜めている感情だと私は考えます。常識という仮面を取れば人間は言い表しようのない暗闇を常に持っているのかもしれないのだなあと思ひ知らされ、周囲の人々とこの物語の人物を照らし合わせてみたりもしました。実験の時の本当の心境は今となっては解る事もできないけれど、この事件はこれからの日本人に対する課題なのだという気持ちが芽生えました。



## 『ライ麦畑でつかまえて』から

1年 電子情報工学科  
乗富 聡一郎

僕がこの作品から感じたのは、一言で言ってしまうと「暗さ」だった。それは、思春期ならば誰しもが抱く、周囲に対する不信感や疎外感から滲み出てくるものである。断言したのは、他ならぬ僕自身がたびたびそれを感じるからだ。

この物語の主人公は、高校を3つも放校された16歳の少年・ホールデン。彼は何不自由なく育ったいとこのぼんぼんで、寂しがり屋で、嘘の巧みな、無神論者である。彼は3つ目の放校処分の後、ニューヨークの街を3日間彷徨う。その道中に起こる様々な、欺瞞に満ちた、うんざりするような出来事を、彼自身が読者へ、シニカルに語りかけていく。

終盤を除き、ホールデンの行動には、少しぎょっとさせられる。彼は自分の寂しさを紛らすために次々と人を呼び出し、そのことごとくを怒らせているのだ。衝突を避ける性分の僕にとっては、まさに別世界の事である。だが、決して理解出来ないわけではない。彼が人を怒らせてしまう原因と、僕が衝突を避ける理由は似通っているからである。即ち、人との距離感が計り切れていないのだ。僕が内向的

性格で、彼が外向的性格だったという違いでしかない。どちらが良い、というのを明言する事は出来ない。僕が言えるのは、「引き」の姿勢は諍いを生じないが、同時に建設的なモノも何も生まないという事だけだ。

さて、終盤になるとホールデンは自身の方向性を見出す。作中の表現を借りて言うならば、純粋な子供の世界は「ライ麦畑」で、深淵の如き巨大な「崖」を飛び越えた向こう側が大人の世界なのだという。彼は当初「ライ麦畑で、向こうをよく見ずに崖のほうへ走る子供をキャッチ」したいと言っている。これは彼の、大人の世界はインチキな世界であり、子供達にはいつまでも「ライ麦畑」にいて欲しいという心情からだ。しかし、彼は恩師の言葉によって、自身が人生における「ただただ落ち続けるだけの落下」の状態であると知る。そして、それが誰でも経験し得る道程であり、その状況を打破するためには自ら第一歩を踏み出さねばならない事も知る。

クライマックスに至り、ホールデンは回転木馬に乗る妹の姿を眺めながら、こう思う。妹は、確かに守らなければならない存在だ。だが、彼女が何かを求め、その結果「崖」から落ちる事になっても、「好きにさせておかないでいい」のだと。

ホールデンが導き出した通り、この世界、というか社会には、ある意味抗おうとしても無為な事が多々ある。もちろん、全てをはなからそう思い、諦観していい訳ではない。だが、流れに身を任せるべき所は任せるべきなのだ。彼の許に、全てを洗い流すかのような「雨」が降ったように、誰もが、いつしか、世間と自身の間の齟齬を理解出来るようになる。僕はこれから、そう思っていきたい。



## 『赤毛のアン』 を読んで

1年 建築学科  
堀川 智代

私が50冊の本の中から『赤毛のアン』を選んだ理由はとても真面目とは言えないようなものでした。その理由とは、「図書館で探すことなく見つかった」からです。そして本を借りた理由も「宿題だから」でした。このように私はいつも「しかたがないから」と何でもしてきました。

しかしそんな私が本を読み終えてみるととても晴々とした後味のよい気分に含まれ、感想文がどうという前に「すばらかった！」その一言でした。おかげで憂鬱だった感想文でさえどんどん言葉が思い浮かび、しかたなく書くのではなく、自分の受けた感情を整理できる楽しいものへと変わっていきました。

この作品にどうして私がここまで虜になったかという、それは主人公アン・シャーリーにとってもない魅力を感じたからです。もちろん最初から魅力を感じていたわけではありません。初めは失敗ばかり、人に迷惑をかけてばかりで全然完璧でなく、「こんな子が主人公なの？」とまで思いました。しかし彼女のひたすら前向きな姿、失敗する事

で学び、マイナスな点もプラスに変える力、そしてこれらの力により成長していくアンに私はどんどん惹かれていくのでした。

アンの手にかかれば私の嫌いな勉強も野心の詰まった魅力的なものへと変わり、いつもどおりの部屋も想像満ち溢れる城となるのです。アンのおごきはそれだけでなく、失敗を恐れずただ真っすぐに歩む事ができるのです。これは人間にとって簡単なようでとても難しいものだと思います。また彼女は流行の服が好きで、今も昔も変わらない女の子の欲望を感じる事ができて親近感を持つこともできました。それからアンはとても想像力豊かで、「想像力なんて大して大切でないのでは…」と考えていた私でさえ、アンにより何もない所からたくさんのが生まれ、いきいきとしている姿を見ると「人間にしかない想像力が私を含め現代人は弱まっている。今の人間にいるものはそれなのではないか」とまで思わせました。そして何よりも、友達、家族の1人1人を心からいつまでも愛し続けるアンは例え他に何ができなくても、理想的な人だと思いました。

私が初めほんやりと想像していたアンはどんどん細かい所まで決まっていき、しだいに似たようなアンを描く人はいるものの、まったく同じ人はいない私だけのアン・シャーリーができていきました。しかし私は近くに感じながら憧れの思いを抱かせるこのすばらしい女の子は誰の中でもいきいきと好奇心溢れる澄んだ瞳をしているのだと思います。そして現代からアンの世界を覗いた私も、アンと一緒に少し成長できたと思います。

## ●●● 審査を終えて ●●●

### 一般教育科 焼山 廣志

もう数年前の事になるが、息子と2人で独国をきままに旅したことがある。帰途はドイツから陸路でオランダを訪ね、アムステルダムから離陸した。その折『アンネの日記』の著者であるアンネ・フランクの隠れ家をつぶさに見てきた。その夜ホテルのベッドで息子がこの隠れ家の印象が強烈すぎたのか、怖くて眠れなさと訴えた。今回久し振りにこの本の読書感想文が多くノミネートされており、学生諸君も文字を介在としてアンネ・フランクの恐怖を追体験出来ている所に、「文学」の持つすごさを改めて実感した。今年度も数多くの力作に接し、本校生の感性の確かさに大いに勇気付けられた。特に1・2年生の奮闘振りが強く印象に残った。

### 一般教育科 岩本 晃代

実感に裏打ちされた文章には、読む人の心を揺さぶる力が宿っています。今年は、作品のテーマを、自分が今抱えている問題を通して捉えようとする意欲作が目立ちました。また、表現の豊かさや面白さに着目した感想文、新しい解釈を展開した感想文等もあって、みずみずしい感性や枠にとらわれない発想に好感を持ちました。

さらに4年生の感想文が例年になく盛況で、大変うれしく思いました。5年生も忙しいとは思いますが、先輩として、もう少し頑張ってくださいね。

来年もたくさんの応募があることを期待しています。

### 電子情報工学科 中村俊三郎

こんなにたくさんの方が書いた文章を一度に読むのは初めてでした。きれいな字で書いている人、文章がじょうずな人いろいろで、どう選べばよいか、読む回数を重ねるほどわからなくなっていく。研究補助金申請の作文の締め切りに追われながら、この感想文の作者たちにその作文を

お願いした方が採択されるのではないかなどと思ったりしました。迷ったあげくに選んだのは、見映えよりも私の心に響く感想文。図書館報掲載用としては、どうだったかわかりません。皆さんの感じ方のすばらしさと多様さを楽しませてもらいました。

### 建築学科 加藤 浩司

今回の読書感想文審査では、それを通して、「同じ本であっても、その感じ方は人それぞれ」ということを実感させてもらいました。また、そうしたみなさんの感性の差異が、私にとっては非常に面白く感じられ、審査のプロセスそのものを楽しく行うことができました。ありがとうございました。それが講評になるのかわかりませんが、全体を読ませてもらった感想として、一つだけ言わせてください。今回、それぞれ選んだ本を読んで感じたこと・考えたことを大切にしてください。みなさんの感想文から、一冊の本から、これだけ色々なことが学べるのかと、本当に感心したとともに、そうした感性を大切にしたいと思うからです。

### 一般教育科 三戸 健司

今回、第3次審査を受けた感想文はどれも表現力のレベルが高く、こちらが恥ずかしくなるような力作ぞろいでした。初めて読んだ書物だけでなく、2度あるいは3度以上読んだ書物の感想文もいくつか見られました。感動した映画も1度だけでなく、回数を重ねるたびに、前回見落としていた部分が見えたり、前回とは違った印象や発見をすることがありますよね。時には前回とは感想が180度変わることもあってありますよね。いい本も同じです。次回は、過去に1度は読んだことのある書物をもう1度じっくり読んで見るのも一考かもしれませんね。

# 図書館統計

## 平成14年度利用状況

開館日数277日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	23	24	25	25	22	23	26	24	22	21	22	20	277
入館者数 総数	4,961	7,238	8,169	5,628	3,470	7,370	7,635	7,466	6,939	6,359	7,504	2,727	75,466
(内夜間)	(721)	(1414)	(1221)	(777)	(0)	(1392)	(1263)	(1731)	(1257)	(1174)	(1348)	(59)	(12357)
(内土曜日)	(68)	(163)	(469)	(109)	(0)	(328)	(349)	(308)	(237)	(176)	(279)	(60)	(2546)
1日平均	215.7	301.6	326.8	225.1	157.7	320.4	293.7	311.1	315.4	302.8	341.1	136.4	272.4
貸出冊数 総数	526	867	703	707	307	555	686	841	738	926	847	191	7,894
(内夜間)	(118)	(267)	(140)	(143)	(0)	(135)	(171)	(247)	(208)	(259)	(205)	(13)	(1906)
(内土曜日)	(15)	(41)	(54)	(28)	(0)	(59)	(42)	(36)	(31)	(38)	(57)	(6)	(407)
1日平均	22.9	36.1	28.1	28.3	14.0	24.1	26.4	35.0	33.5	44.1	38.5	9.6	28.5

## 分類別図書貸出冊数の推移

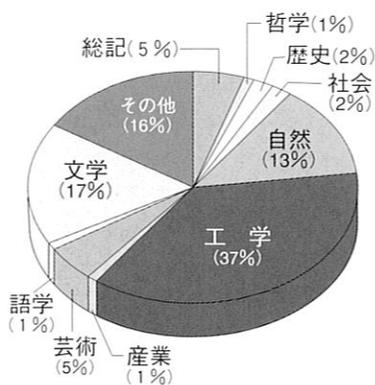
年度	総記	哲学	歴史	社会	自然	工学	産業	芸術	語学	文学	*その他	合計
平成10年度	625	93	111	78	1,073	2,327	96	347	88	1,253	-	6,091
平成11年度	401	97	236	137	931	2,838	184	656	95	1,507	546	7,628
平成12年度	232	102	180	122	784	2,391	101	209	52	1,124	996	6,293
平成13年度	207	77	192	138	943	2,520	67	443	44	1,376	1,459	7,466
平成14年度	274	92	183	124	929	3,099	96	299	53	946	1,726	7,821
平均	348	92	180	120	932	2,635	109	391	66	1,241	1,182	7,060

\*「その他」は、文庫・新書および雑誌の貸出冊数を示す。H.10年度以前は集計していない。

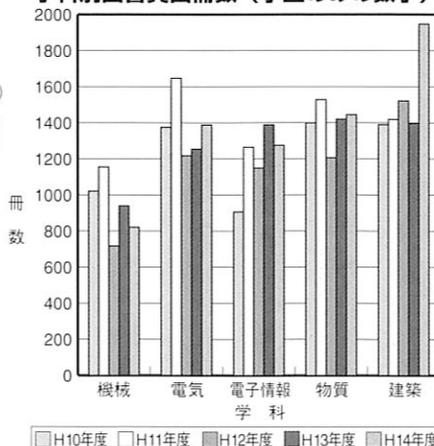
## 利用状況の推移

年度	開館日数	利用登録状況				入館者数		貸出冊数				1日当たりの数値		1人当たりの数値	
		総数	(内学生)	(内教職員)	*(内学外利用者)	総数	(内夜間・土曜日)	総数	(内学生のみの貸出冊数)	(内夜間・土曜日)	*(内学外利用者)	1日当たり入館者数	1日当たり貸出冊数	**学生1人当たり貸出冊数	利用者1人当たり貸出冊数
平成10年度	275	1,282	1,038	193	51	81,766	12,354	6,596	6,091	1,599	105	297.3	24.0	5.9	5.1
平成11年度	275	1,312	1,038	185	89	81,366	14,229	7,628	7,013	2,352	112	295.9	27.7	6.8	5.8
平成12年度	265	1,216	992	156	68	68,633	11,848	6,293	5,813	1,771	100	259.0	23.7	5.9	5.2
平成13年度	279	1,304	1,043	187	74	80,735	12,658	7,466	6,815	1,898	87	289.4	26.8	6.5	5.7
平成14年度	277	1,288	1,044	182	62	75,466	14,903	7,894	6,876	1,906	407	272.4	28.5	6.6	6.1

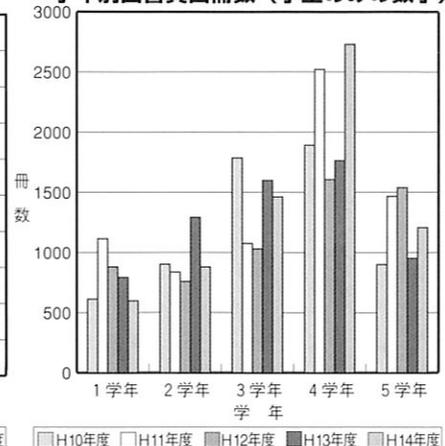
分類別貸出冊数割合  
(平成10～14年度平均)



学科別図書貸出冊数 (学生のための数字)



学年別図書貸出冊数 (学生のための数字)



# 郷土の文化財

## 国指定史跡豊前街道南関御茶屋跡

嘉永5年(1852) 熊本県玉名郡南関町大字関町1141-2

南関は古代から交通の要衝として、国境警備のための関が設置されていました。近世には古代の官道が豊前街道となり、参勤交代の道として利用されていました。

南関町役場の北側の高台に建つ南関御茶屋跡は、参勤交代の際に豊前街道を利用する肥後藩主等の休憩・宿泊のための施設です。

建物は嘉永5年(1852)に再建されています。東を正面として南北に長く、棧瓦葺の屋根は、南側が入母屋造、北側が寄棟造となっています。鬼瓦や軒瓦には細川家の九曜紋が用いられており、細川家との強い繋がりを示しています。

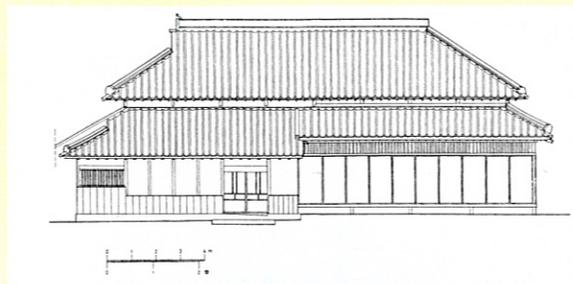
主な部屋は北端から御居間・御次間・三の間と続く3室です。御居間には西面に床の間と違棚があり、部屋の北側と東側に縁が巡らされています。

古文書には御居間八畳、御次拾五畳、三ノ間拾四畳、御入側拾畳、等と記されています。御居間は現在18畳と広い部屋ですが、元々は8畳で、北と東に1間幅の畳敷の入側縁があったと考えられます。

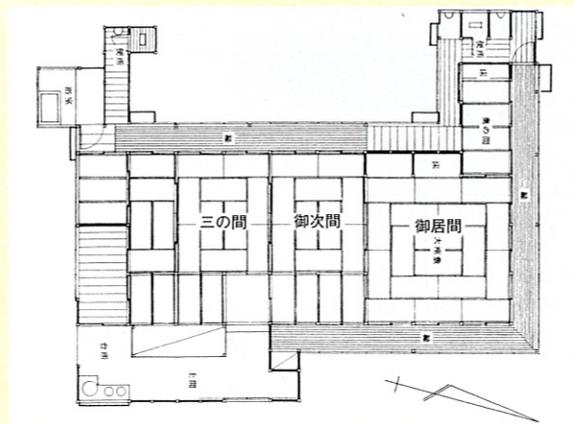


東北面全景 (南関町教育委員会提供)

豊前街道南関御茶屋跡は改造され、旧規を伝えている部分はありませんが、近世の交通史上貴重な遺構で、平成15年に国指定史跡に指定されました。建物は現在かなり痛んでおり、平成17年1月まで修理が行われる予定です。尚、南関町大字肥猪町にも御茶屋があり、藩主等の休憩所として使われ、建物の一部が残っています。(建築学科 松岡 高弘)



現状東立面図 『南関町史』より



現状平面図 『南関町史』より

## 編集後記

今回は図書館の特集を組んでみました。外観は大きくは変わっていませんが、中身は細かいところで、いろいろと改修がなされています。エレベーターや、トイレ、セミナー室などみなさん自身で確認してみてください。今回、初めて、図書館報の編集を担当しましたが、戸惑ってばかりで、段取りやら、原稿依頼やら、ずいぶん館長に助けをいただきました。本当にありがとうございました。今回は新任の先生に御自身の読書に関する思い出を書いていただいています。先生の「読書の思い出」にふれて、自身の図書選びのヒントにし

てもらえればと思います。また、各科の図書委員の先生の推薦する図書を掲載しています。ただ、真面目な本だけではなく、読みやすく面白いものばかりなので、ぜひ図書館に足を運んで手にとってみてください。恒例の読書感想文も掲載していますが、今年は数多くの作品が寄せられ、その分選考作も力作揃いになっています。審査委員の先生方、ありがとうございました。それではみなさん、新しくなった図書館で、本を探し、読む楽しみを味わってください。